

別記様式

会議録（要点筆記）

会 議 名	第4回米原市教育振興基本計画審議会
開 催 日 時	令和3年5月27日（木） 午後7時～ 午後9時
開 催 場 所	米原市役所本庁舎 会議室3B
出席者および欠席者	<p>出席者：大橋松行会長、梶本一孝副会長、田中一郎委員、須藤明子委員、久保田吉則委員、富岡尚子委員、武田哲也委員、四方由美子委員、上橋純子委員、藤木利彦委員、馬淵孝子委員、川部亮委員、山岡佳江委員</p> <p>欠席者：高木清文委員、新木豊委員</p> <p>【事務局職員】</p> <p>馬淵均教育長、上村浩教育部長、西村善成教育部次長兼教育総務課長、山口昌章学校教育課長、梶田悟生涯学習課長、花部正人スポーツ推進課長、藤田明子学校給食課長、立木ひろみくらし支援部長 口分田剛 こども未来局長、石河輝男子育て支援課長、小寺真司保育幼稚園課長、奥村和芳教育総務課長補佐、松村英香政策推進課長補佐、武藤梨加主査</p> <p>【株明豊】</p> <p>大川祐希</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"><li>1 開会あいさつ</li><li>2 教育長あいさつ</li><li>3 委員の交代について</li><li>4 議事<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 第3期米原市教育振興基本計画の策定について</li><li>(2) その他</li></ol></li><li>5 閉会あいさつ</li></ol>
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	<p>【次回審議会日程】</p> <p>7月上旬 午後7時から</p>

事務局	<p>皆様には夜分お疲れのところ、御出席いただき感謝する。定刻となり、第4回米原市教育振興基本計画審議会を開催する。</p> <p>本日は高木委員、荒木委員が御欠席、武田委員が少し遅れる。</p> <p><b>【資料確認】</b></p> <p>会議の成立について、出席委員は12人、本会議は成立している。会議は公開となっている。</p> <p>会議を始めるに当たり大橋会長より御挨拶をお願いします。</p>
会長	<p>皆さん、こんばんは。夜分に、また、御多用の中、当審議会に御出席いただき感謝申し上げます。</p> <p>本日は、これまでの歴史的な重みある建物から、新築庁舎での会議となった。私自身は、何か新しい気分で、皆様方と時間と空間を共有できることを、ありがたく思っている。</p> <p>本日の会議では、前回会議での基本目標の検討を受けて、その下につながる施策の検討までの協議をお願いしたいと考えている。第2期教育振興基本計画の成果と課題について、皆様方から建設的な御意見をいただきたい。限られた時間であるが、どうぞよろしく願います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>令和3年4月1日に、米原市教育委員会教育長に馬淵均教育長が就任された。教育長から御挨拶を申し上げます。</p>
教育長	<p>皆さん、こんばんは。御出席感謝申し上げます。</p> <p>米原市では、今年4月から、教育の中身を少し変えてきているため、この場をお借りして、説明をさせていただく。</p> <p>まず、教育の今として、子どもたちが「何を学ぶのか」が変わってきている。平成30年度から新しい教育要領、保育指針、保育要領等に変更、学ぶ内容、身につける内容等が変わってきている。小学校は</p>

昨年度、新学習指導要領が全面実施され、内容が変わった。小学校の高学年が外国語を学ぶということで大きな変化が起きている。さらに、プログラミング教育、道徳の教科化等もあります。本年度からは、中学校が新学習指導要領を全面実施する。大きな変化といえば、英語を基本的に英語で指導することとなった。高校では、来年度から英語を英語で学ぶように変わる。このように、「何を学ぶか」が変わってきている。

同時に、「どのように学ぶか」も変わってきている。アクティブラーニングの視点からの授業改善が実施され、主体的、多様な深い学びというものを具現化するようになってきている。

さらに、昨年度末に1人1台のタブレットが導入され、「個別最適な学び」といわれるように、「子どもたちが自分で検索し、自分に合った内容について、自分のペースで進めていく時間」ができた。それと、先ほどの対話的な学び、協働的な学びをどのようにうまく混ぜ合わせて教育をしていくかということになる。

教育の中身については、「授業の中で何ができるようになるか」を、子どもが意識して学び、授業の最後に「何ができるようになったのか」という自己評価のようなものをしていく形になる。そのような流れの中で、「学んだ内容を自分の人生や社会でどのように生かすのか」という視点を子どもに持たせるという方向になってきている。

このような大きな教育の変化の中で、米原市はまず、学校教育の中で子どもたちの成長、可能性を実感させる具体的な指導をしてほしいと思っている。そのような中で、子どもたちが自己肯定感を高め、将来の夢を抱くようになり、同時にキャリア教育を行い、子どもたちの発達に応じた社会貢献活動やボランティア活動をしながら、「自分が社会の役に立つ」という自己有用感を高めてほしいと考えている。米原市では、将来の夢を膨らませ、自分の夢の中に他者が存在し、「何かをしたい」という志を持たせる教育を、進めていきたいと考えている。

「夢と志を持たせる教育」を進めたいということで、それを加味した

事務局	<p>内容になっている。よろしく御審議をお願いする。本日はよろしくお 願いしたい。</p> <p><b>【石河委員から武田委員への交替を報告】</b></p> <p>それでは議事について大橋会長に進行をお願いする。</p> <p>それでは議事を進行する。議事1の教育大綱素案について事務局よ り報告をお願いする。</p>
事務局	<p><b>【教育大綱について、資料1に基づき説明】</b></p>
会長	<p>ありがとうございました。ただいまの説明について、御意見、御質問 をお願いする。</p> <p>私から、確認させていただく。4ページ3の基本目標④に、ICT の機器の活用がある。文脈は全く問題がないと思うが、理由の1行目 が非常に気になる。「ICTの機器の活用が深い学びにつながる」と あるが、必ずしもつながるわけではないと思う。「ICT機器の活用 を深い学びにつなげる」という表現に改めるとよいと思う。これは文 部科学省が進める「GIGAスクール構想」の一貫としての整備であ る。その大きな特徴は、学びを個別最適化することである。これは、 子どもたちが自分の趣味や興味に合った学習ができる1つのツールと して、ICT機器を用いることから、必ずしも深い学びにつながると は限らないと思う。深い学びにつなげるためには、「協働で探求する 学び」「お互いが学び合うということ」が必要であり、必ずしもIC T機器を導入することで必然的につながるわけではない。そのような 認識が必要だと思う。</p> <p>学びの質を研究されてきた東大名誉教授の佐藤学先生は、教育学の 第一人者であるが、「ICT教育が学力向上につながるというエビデ ンス（科学的根拠）は、ほとんどない」と言っている。その根拠は、 国際学習度到達度調査の調査委員会が2015年にまとめた報告書を分析</p>

	<p>した結果から得られている。これは、先進国の集まりであるOECD加盟の29か国のデータを分析した結果で、かなり信用度の高いものである。</p> <p>その結果、学校でコンピューターの使用が長時間になると、読解力も数学の成績も下がっていくといった、逆の効果が出ていたとの調査研究もあった。その理由が2つ挙げられている。1つ目は、深い思考を育む先生と子どもの対話がコンピューターによって阻まれる可能性があるということである。2つ目は、従来の授業スタイルのまま、コンピューターを取り入れることは限界があるということである。佐藤先生の独自の解釈として、現在のICT教育の現場で使われるソフトの質が合っていないということである。したがって、このICT教育を行うにあたり、そのような点に留意しなければ、ICTで深い学びを達成することにつながらないという認識をする必要があると思う。</p> <p>アップルのスティーヴ・ジョブスは、子どもがiPadを使うことを制限していた。むしろ、読書や会話の時間を大切にしていたということである。また、ビル・ゲイツは自分の子どもには、14歳までスマートフォンを持たせなかったようである。ICTの創始者が自分の子どもにはそのような制限をしているということは、何かの問題点があるのかもしれない。参考に紹介させていただいた。</p> <p>ほかにご意見等はございませんか。</p> <p>基本目標の文言として問題はないと思います。</p> <p>基本目標2に「家庭教育は全ての教育の出発点であるという認識をもち」という表現があるが、「出発点」ではなく「基盤」という言葉がふさわしいと思う。この先、新しい力を付けていく中で、家庭で付けた力が常に底辺にあってこそ伸びていくのではないかと感じる。</p> <p>確かに御意見のような考え方もあると思う。この文言については、総合教育会議にて検討させていただく。</p>
委員	
事務局	

委員	<p>ICTのソフトの質を指摘されている声があるという調査報告を聞いたが、米原市で配布されたパソコンのソフトは、どのようなものか。子どもが小さいときに、家庭のパソコンと学校のパソコンではソフトが違うため分からないと言われた。現在はいかがか。</p>
事務局	<p>使用しているソフトは「ミライシード」である。ミライシードには2種類あり、1つはドリルパーク。これはAIドリルで、子どもたちがドリルに取り組を進めていく中で、その子どもの力に応じて次の問題が出てくる仕組みになっている。もう1つはオクリンク。これは、子どもたちが協働的な学びをするに当たり、例えば、子どもが意見を書いたものを教師に提出することができる。教師はそれを見て、みんなで共有したい意見を、子どもたちのタブレットに送り返すこともできる。そのように集約したり配ったりすることができるソフトである。</p>
会長	<p>答えを入力すると、即座に○か×が表示され、正解であれば次に進むというようなソフトはよろしくないということであるが、今の説明だと、そのようなものではないということである。</p> <p>ほかにご意見等はないか。では次の議題に移る。</p>
事務局	<p><b>【第2期米原市教育振興基本計画（目標指標）の現状について、資料2に基づき説明】</b></p>
会長	<p>今回の重要なポイントは、19ページからの「第2期計画の成果と課題」、47ページの「施策体系」である。本日の会議の重点をここに置いて進めたいと思うので、よろしく願います。</p> <p>「成果と課題」に入る前に、1ページから18ページまでの部分に、目標指標の現状値についての説明があり、この部分について質問等があれば願います。</p>
委員	<p>目標指標の2番目「総合学力調査」の「読む能力の正答率」について</p>

事務局	<p>て、令和3年度は、中学生では実施していないため、数値は出ないと思う。令和3年度は、小学4年生だけ実施するのだと思う。</p> <p>総合学力調査は、全国学力学習状況調査とお考えいただきたい。</p>
委員	<p>そもそも米原市の教育振興基本計画の対象は、学校教育と生涯教育・社会教育が入った、総合的な内容だという理解でよいか。子どもを対象とした学校教育がメインになっているのだと思うが、この計画全体が何を対象にして「教育」としているのか理解しにくいと感じる。一市民が、これを手に取ったときに、何を対象にしているのか、基本的に書かれていると分かりやすいと思う。生涯教育等、大人を対象とした教育も含めこの計画を立てるのであれば、もう少し分かりやすい表記をお願いしたい。計画策定の趣旨のところ、一言、明記すればよいかもかもしれない。</p>
事務局	<p>この教育振興基本計画は、学校教育、生涯学習教育、全ての教育に関するものである。基本目標ごとに、子どもをメインに扱っている章と、生涯学習などの章に大きく別れるが、混在しているところもある。計画としては、教育を網羅したものになる。</p>
委員	<p>計画策定の趣旨の部分に、「生涯を通じた教育」等の文言があると、親切だと思う。</p>
会長	<p>資料2の令和3年度の目標値に、達しないと思われるものがある。何か理由があるのだと思うが、市民に公表する際には、その理由を説明する必要があると思う。よろしく願います。</p> <p>ほかにご意見等はないか。</p> <p>本日の重点である、19ページの「第2期計画の成果と課題」に進みむ。基本目標が5つあるため、目標ごとに意見をいただきたい。</p> <p>まず、19ページから25ページまでの基本目標1「心豊かでたくまし</p>

委員	<p>く生きる力を育む教育を実現します」について、ご意見ご質問があればお願いします。</p> <p>米原市の子育てについては、市長の公約等にもあるように、「地域で一番子育てしやすい市を目指す」というイメージがあるが、それが市民にどれほど浸透しているのか。そのような方針で市は動いているのだと思うが、それが市民に伝わるような活動ができればよいと思う。</p>
委員	<p>「確かな学力の向上」で、21ページの一番上に「電子黒板や1人1台ずつタブレットを配備するなど」とあり、環境を整えると記載がある。確かに1人1台ずつタブレットが配布されているが、現状では通信環境が整わず、30人が一斉に使うことができないという課題もあるようだ。結局、グループで1台を使う等の工夫をしている。また、タブレットの使用が、学校の事務関係の通信環境にも影響し、事務の仕事が滞ってしまうという課題もあると聞いている。</p>
委員	<p>私は図書館協議会委員をしている。この4月から、前教育長も力を入れられ、「23日はまいばら読書の日」となった。しかし、実際には、4月23日には、学校側から子どもや親に対しての働きかけがあまりできておらず、学校の先生が生徒に本の読み聞かせをして終わったという学校もあると聞いている。</p> <p>「まいばら読書の日」は。本来は「家庭で親と子が一緒に本を読みましょう」「本のすばらしさを、親が教えましょう」という趣旨で始まったのだと思う。「まいばら読書の日」のポスターさえ届いていない学校があると聞いている。学校と市との連携を、しっかりとさせていただき、市として、「まいばら読書の日」を推進していただきたい。</p> <p>21ページの中ほどの課題に、「読書活動を推進するため、学校図書館と市立図書館、学校司書と図書主任や教職員、ボランティアとの連携を図り、継続してボランティアの人材確保と育成を進めることが必要です」とある。今までにない活動をすると言われているにも関わら</p>



	<p>ず、お声すらいただいている。先日、勝手に、新庁舎の屋上で、まいばら読書の日の日曜日に、本を並べて活動した。ボランティアだけで取り組んでも、市民に周知されていないため、来場者は多くなかった。ボランティアは一生懸命に進めていきたいという思いを持っているが、集客や啓蒙を進めることは、市と連携していかなければいけない。市から働きかけをしていただければ、私どもも多くの人材がおり、御協力できると思う。坂田小学校での読み聞かせのボランティアは24人いる。他の小学校にもボランティアがいると思うので、どんどん使っていただければと思う。会議が必要であれば開催していただければ良い。御検討いただきたい。</p>
委員	<p>22ページに「LGBTへの理解を深め」とある。私は学校の制服を扱う仕事をしており、5年前にも教育振興基本計画の策定委員会に参加させていただいた。5年経過し、制服に対して主張をする子どもが明らかに増えていると感じる。米原市の教育大綱で「心豊かでたくましくしなやかに」という言葉を使うのであれば、教育者やPTA会長の方に学校の制服のデザイン変更を検討いただきたいと思う。実際に制服合わせの現場にいと、相当悩んでいる女子生徒等も年々増えている。南部の学校では、結構進んでいる。子どもたちからは「スカートはいやだ」「セーラー服はいやだ」という声は挙げられないと思う。制服にLGBTの問題が派生しているのご理解いただけるのであれば、「しなやかに」対応していただきたいと思う。</p>
委員	<p>校園長会議の中で教育長から制服に関する意見があった。中学校の校長会では、今年1年、制服についての検討を始めようとしている。</p>
会長	<p>ほかに御意見等はないか。</p> <p>続いて、25ページからの基本目標2「学校・家庭・地域がつながり、協働して地域全体の教育力を高めます」について、御意見・御質問があればお願いします。</p>

	<p>施策の方向性①「子育て支援と家庭の教育力の向上」で、PTAのことが数多く挙がっている。PTAの在り方については、全国的に問題になってきている。PTAは学校と保護者による任意団体であり、法的根拠は全くないため、両者は対等な立場で活動するというのが原則である。ところが、往々にして義務と負担、強制の組織になっているのではないかと問題視されており、家庭を犠牲にしてまで出なければいけないという負担が発生していることがあるようだ。そのために、PTAに入れない保護者の方も、特に都市部では出ているようで、そのような方が滋賀県でも出てこないという保障は全くない。各園、各学校の実態を把握し、もし問題があれば改善していく必要がある。まずは、PTAの役員をされている方のお声を、しっかりと聞いていただきたいと思う。個人的な要望であるが、よろしく願います。ほかに意見等はないか。</p>
委員	<p>27ページに、「学校支援本部地域コーディネーター」という表現があるが、現在は、「学校支援本部」から「地域学校協働活動推進員」と名称が変わっている。ただ、「地域コーディネーター」は学校現場でも非常にわかりやすい表現であり、ここでは「地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）」と表記していただくと、わかりやすいかと思う。28ページにも、地域コーディネーターという文言がいくつかあるため、よろしく願います。</p>
会長	<p>ほかに意見等はないか。</p> <p>では、基本目標3「一人一人が大切にされ、安全・安心で質の高い教育が受けられる環境をつくります」について、御意見・御質問があれば願います。</p>
委員	<p>29ページの成果の中ほどに、「児童発達支援センターテラス」とありますが、「ふくしあ」と同じように、ひらがな表記で「てらす」と、訂正をお願いします。</p>

<p>委員</p>	<p>また、相談支援は子どもの福祉サービスの計画を立てるところだが、小学校に入り、子どもたちが通所する「児童発達支援」があるため、これを追加していただきたい。</p> <p>33ページ⑤「教職員の指導力の向上」について。昨年のコロナ禍の休校時に、学校の先生による動画を、伊吹山テレビで作成した。それを子どもたちが視聴するということが、5月6月に行われた。先生方は普段、動画をつくることもないため、現場が混乱したという話も聞いている。学校が再開し、実際に生徒たちが登校しているのに、動画をつくらなければならないらず、授業後に動画撮影をしたということだが、もう少し考えた対応ができると思う。</p>
<p>会長</p>	<p>ほかに御意見等はないか。</p> <p>私から2点申し上げる。1点目は31ページの「就学援助制度および給付型奨学金制度ともに、より積極的な周知が必要です」について、本年3月の奨学金審査会でも、市内の中学3年生にもこの制度をアナウンスする必要があると進言した。奨学金は高校3年生のときに申請するものであるが、その段階で周知しても中々浸透しないため、中学生の段階からアナウンスする必要があるのではないかと思う。そうすることで、市内に住んでおられる子どもの申請が増えると考えている。</p> <p>もう1点は、制度の在り方について申し上げる。昨年度、51人の申請があった。定員は40人だと思うが、それを大幅に上回った数である。それ以前は定員数を下回っていたため、募集の在り方がかなり影響をしているのだと思う。基準が厳しいようにも感じ、場合によっては、申請条件を見直す必要があるのではないかと思う。見直しが必要であれば、「しなやかに」対応していただくと、救える子どもたちも増えてくると思う。</p> <p>32ページの課題で、スクールガードについての記載があった。長浜市では、スクールガードはほとんど学校と連携していないという実態を伺った。事故や事件が発生した場合、学校と連携が無ければ、スクー</p>

<p>委員</p>	<p>ルガードもどのように対応してよいのか分からない。学校との連携はきちんと取る必要があると思う。</p> <p>また、「通学の見直し」についての記載は、スクールバスの運用の問題かと思う。少子化に伴い、子どもたちの数が少なくなり、保護者が子どもたちを迎えに行くという実態もあるようだ。自治会に子どもが1人の場合、スクールバスが使いにくいということで、保護者が自家用車で迎えに行くと同っている。基本的には2キロ以上の場合、スクールバスが使えることになっているが、キロ数の見直しをする必要もあるかもしれない。また、クマなど出没、交通事情の問題等、通学路の危険箇所も考慮しながら、スクールバスの運用等を考えていく必要があると考えている。見直しされる場合の基準としてお考えいただきたい。</p> <p>私は「子ども110番」の店をしており、何年かに1回、講習会がある。ここに「不審者対応避難訓練」とあるが、例えば「子ども110番」に逃げ込む場合もあると思うので、子ども110番についても記載があってもよいかと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>「子ども110番」については、26ページの②「子どもの育ちを支えるコミュニティづくり」の成果に数の記載がある。</p> <p>取組については検討させていただき、またお知らせさせていただく。</p> <p>先ほどのスクールガードの件であるが、確かに、各小学校の登下校の際に付き添っていただいたり、見守りをいただいている。本市では、「学校安全安心メール」を保護者に登録していただき、情報を流しているが、それをスクールガードの方にも登録していただくようお願いしている。急に下校時間が早くなる等の連絡をしながら連携を取っている。また、年に1回の研修を実施している。</p>
<p>会長</p>	<p>ほかに御意見等はあるか。</p> <p>では、基本目標4「生涯にわたって豊かに学び合い、いきいきと活</p>

委員	<p>動できる環境をつくります」について、御意見御質問があればお願いします。</p> <p>「ルッチまちづくり大学」について質問する。ルッチまちづくり大学は、現在、第9期までできている。他市にはない、すばらしい生涯学習の場だと思う。人口3万5千人程度の米原市だけが募集対象ではなく、長浜市や彦根市からも入っていただけるが、現在は、生徒の募集が中々難しいと感じている。せっかく滋賀県立大学の教授をお呼びして、日本中のすばらしい講師をお呼びできる基盤があるのに、この学びの場を有効に活用しないということは、大変もったいないと思う。ぜひ、生涯学習課で今後の方針等があればお聞きしたい。</p>
事務局	<p>このルッチまちづくり大学では、この9月に第9期が卒業される。本年度、10期生の募集を、今後進めていくということで検討中である。今まで多くの方に御入学いただきしており、多くの市民の方に受講していただきながら、まちづくりの活動に生かしていただいていると認識している。募集についても、現在、受講中の方を通じ、口コミ等で御紹介いただいたり、広報等を通じて募集をさせていただきたいと考えている。魅力ある講座にしていきながら、多くの方に入学していただきたいと考えており、今後も広く募集していきたいと思う。</p>
委員	<p>私も実際のルッチまちづくり大学卒業生として、「ルッチ未来会議」という、ルッチまちづくり大学の今後の在り方を検討する会議に参加している。現在、入学されている方に、ルッチまちづくり大学を知りきっかけをお聞きすると、口コミという回答しかない。いくらケーブルテレビ等で紹介されていても、だれかに誘われたら入るという現状のようである。これは、米原市の誇りになる事業だと思うし、私も実際に卒業して、「いつも休日になったら」というテーマで、小さな店を主人と開いているが、ルッチまちづくり大学で学んだことは役に立っていることも多いと感じる。だれかに誘われなくても、すばらしい生</p>

委員	<p>生涯学習事業であるため、御参加いただきたいと思う。お年寄り向け、定年後に行く大学だと勘違いされている方がおられるようだが、とても素晴らしい大学なので、現役の方もぜひ御検討をお願いする。</p> <p>この大学を出た人は、地域で自分の学びを生かしていることも事実であるし、自治会の役員のなり手の問題がある中では、ルッチまちづくり大学で人材をどんどん発掘して、育てていく必要もあると思う。学費も大変安いし、これほどよい大学はないと思う。今までは口コミで広がってきたようだが、そのような方法だけでは、簡単に人は集まらないと思う。生涯学習課に任せるだけでなく、市としてバックアップして、自治会の会長の集まる場等でも紹介するとよいと思う。自治会とは、自分たちのまちを住みやすくするための集まりが原点ですので、そういうところでもしっかりとアピールしていただきたいと思う。</p>
委員	<p>まちづくり大学はルッチプラザの整備とともにできた大学で、私はその立上げに携わった。第1期生は40数人おられたが、現在は半数程度である。先ほどの御意見にもあるように、自治会に働き掛けることも必要であるし、各部局でいろいろな形で携わっていただいているグループ、例えば環境であればゴミの関係の団体等、いろいろな団体があると思うので、そのようなところにも呼び掛けをしていけば、必ず次につなげることができると思います。そのような取組をしていきたいと考えている。</p>
会長	<p>ほかに御意見等はございませんか。</p>
委員	<p>私は、現在、ルッチまちづくり大学の第9期生である。市の職員の方が、3、4人おられる。若い方で、多分、市役所から「若い人が入ってくれ」と依頼されたのだと思うが、業務が多忙であったり、移動があったりして、参加でなくなった方もおられ、残念に思う。そのような点は、市役所にも御配慮いただき、できるだけ参加できるように</p>

<p>会長</p>	<p>お願いしたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>ほかにご意見等はないか。</p> <p>34ページ②に「人権文化の確立」の一番下の課題に、「いじめ専門委員会の定期的な開催や第三者によるいじめ調査委員会の指導助言を各学校に周知徹底するために」という文言があるが、毎月行われる校長会で、学校教育課の課長から、そのような指導助言をいただき、丁寧に教えていただいている。私どもは、それを聞き、学校に帰り、職員にそれを伝えているので、「課題」と書いてあるが、学校には浸透しているのではないかと思う。成果の方に書いてもよいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>事務局で御検討をお願いします。</p> <p>ほかにご意見等はないか。</p> <p>私から申し上げる。35ページ③の「地域で活躍する人材の育成」の課題の4番目に、「審議会等委員の女性割合は、県下平均を下回る値となっており、審議会等委員への女性の就任を進める取組を行う必要がある」とあり、この通り進める必要はあると思う。ただ、ここで1点留意していただきたいことがある。他の自治体のある委員会の会議で、ある女性議員が発言したことであるが、「女性であればよいという考え方は女性差別である」ということで、「女性であり、かつ委員としてふさわしい資質や能力のある人物を選んでほしい」というご意見だった。その点を、ぜひ留意していただきたい。</p> <p>また、5番目に、「自治会長に占める女性割合は平成30年度の2.8%を最大として、低い値で推移しており、令和2年度実績は、県下平均を下回る値となっていることから、自治会長への女性の就任を進める取組を行う必要があります」とあるが、これに関しては、私は、現段階では非常に難しい課題で、実現は不可能に近いと思う。自治会への加入は、個人単位ではなく世帯単位であるが、世帯の代表者は主に男性であり、どうしても自治会長は男性になる可能性が高くなる。従って、</p>

委員	<p>女性の自治会長の割合を増やすためには、世帯単位を、個人単位に改めることが必要になる。改めるといっても、意識改革ができなければ難しく、自治会長を選ぶ仕組みを大きく変えない限り、困難だと思う。そのようなことを意識して進めないと、課題として挙げて理解できない。まして、衰退してきている自治会では、なお更、そのようなことが言えると思う。</p> <p>ほかに御意見等はないか。</p> <p>36、37ページに、図書館協議会で話し合った内容が多く書かれているが、人口減少傾向の中で、「立派な図書館が2つもある中で、これでよいのか」といわれるぐらい、毎年、貸出冊数が減っている状況である。私は、協議員とは別に、ボランティアで読書推進活動をしている。貸出冊数が減少している理由としては、子どもがYouTubeを見たり、スマホを使用することで、読書をする時間が減っていることがあると思う。今まで40歳代、50歳代の方がよく本を読まれていたが、現在は本を読む方が高齢化しており、遠くから図書館に来られないとか、自転車に乗って行ける距離に図書館がないといった理由もあると思う。図書館の本を高齢者施設等に持っていくサービスを、ボランティアでやってくれないかという相談を、図書館から受けている。</p> <p>課題の3番目「少子高齢化の進行や人口の減少」に、課題として「情報発信やイベント等を検討し」としか書いてないが、「ボランティアと連携し、高齢者施設に本を届けるサービスを実施する」と記載していただけると、私どもも今後、動きやすいと思う。御検討をよろしく願います。</p>
会長	<p>ほかに御意見等はないか。</p> <p>では、基本目標5「米原の自然・歴史・文化の保存・活用を進め、地域文化を育みます」について、御意見御質問があれば願います。</p>
委員	<p>成果の2番目に「かっつとび伊吹」についての記載があり、「かっつと</p>



委員	<p>び伊吹の活動を通して環境保全の意識が高まりました」と書いてあるが、大きな違和感を覚える。どうしても書く必要があるのであれば、このような記載は削除したほうがよいと思う。「かっつとび伊吹」は伊吹山登山道の崩壊や植生破壊を招いている。特に、イベントのために練習する人が多く、狭い登山道を駆け上がることで、植生の破壊につながっている。鹿のことが問題視されているが、人間も大きな破壊をしている。山を駆け上げるというようなスポーツは存在するが、伊吹山は動植物を観察するのに適した山で、関西でも珍しくすばらしい山である。あの山には「かっつとび伊吹」は全くそぐわないと思う。自然破壊そのものだと感じている。あのイベントで環境保全の意識が高まると考えることは矛盾していると思う。</p> <p>私は、課題に書いてある「伊吹山を守る自然再生協議会」に参画しているが、ここでも「かっつとび伊吹」は深刻な問題になっており、自然のことを考えるのであれば、今すぐにやめるべきだという考え方をしている。「かっつとび伊吹」では、自然を学ぶ場にもなり得ない、大問題だと何年も前から認識されている。</p> <p>また、成果の最後にイヌワシの幼鳥の剥製の展示についての記載があるが、このイヌワシは、2019年に伊吹山で生まれ、伊吹山に生息したイヌワシだということを追記していただくとよいと思う。イヌワシは、日本に数100羽ほどしかいない。つがい数も150ほどで、滋賀県内には5つがいしか生息していないような貴重な鳥である。繁殖も毎年ではなく、何十年に1回しか繁殖しない、貴重な生き物が、伊吹山にいたということが、米原市民に伝わるとよいと思う。よろしく願います。</p> <p>米原市の図書館の活性化のために、米原の伝統工芸の写真店をさせていただいた。私は山東町で生まれた関係で、近江町で養蚕をしていることを始めて知った。「北川キルト」は、昨年末で廃業された。今は、岩脇で養蚕をしている。市長も講演会と写真展に来ていただき、感動していただけた。全国で蚕を育てているところは4か所ほどしか</p>
----	---

	<p>ないが、その1つが米原市内にあるということである。現在では、蚕の真綿の布団をつくることは難しいが、岩脇では化粧品に力を入れており、銀行と連携して取り組んでおられた。</p> <p>私も、先日5人で、桑の木を300本植えてきた。そのように、頑張っておられる方に、支援をするべきだと思う。</p> <p>ほかにも、ここに記載されていない伝統工芸があるかもしれないので、再度、洗い出しをしていただき、もしあれば記載していただきたいと思う。また、それを教育の場で取り上げることが有効だと思う。岩脇には、長浜市の子どもは校外学習に来るそうだが、地元の子どもは来ないようである。養蚕を学び、モノを大切にすることを学ぶ良い機会だと思うので、ぜひ検討いただきたい。</p>
会長	<p>ほかに御意見等はないか。</p> <p>では、これで全ての基本目標の成果と課題について、御意見と御質問をいただいた。</p> <p>続いて第3期計画の施策体系について事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	<p><b>【第2期および第3期米原市教育振興基本計画の体系比較について、資料4に基づき説明】</b></p>
会長	<p>施策の方向、事業内容を説明いただいたが、これが具体的な施策の中身になってくるのだと思う。それを勘案しながら、御意見等をいただけるとありがたいと思う。</p>
委員	<p>先ほど、タブレットの話が出ていたが、電子黒板について、現在、どの程度、学校に整備されているのか。私は学校を離れて6年になるため、情報があれば教えていただきたい。</p> <p>また、コロナ禍で大阪等において家庭学習をするということが急に決まり、家庭でタブレットを使い、インターネットを利用するという</p>

事務局	<p>ことになったが、家庭の状況も分からないままの決定だった。情報が十分に取れないとか、学校でも情報量の関係でグループ活動をしなければいけない等、本来の使い方ができないような事情もあるようだ。やっていることが、少しちぐはぐな状況が大阪でさえ起きているようだ。米原市でも同じようなことが起こっているのではないかという御意見があった。これからの整備状況を、どのようにお考えなのか、情報があればぜひ教えていただきたいと思う。</p> <p>電子黒板については、ほぼ整備が終わり、各教室に行き渡っている。あとは、特別支援の教室に、今後、何台か入れていく予定である。使用状況については、非常に有効活用できていると思う。</p> <p>タブレットについては、中々スムーズに動かないという状況があったが、少しずつ授業に活用できるようになっている。例えば、調べ学習やみんなで意見を交流するような場面に用いる等、また、自分の運動の動きやリコーダーの運指等を撮り、自分で確認して活用するなど、利用が進んでいる。</p>
会長	<p>ほかに御意見等はないか。</p>
委員	<p>4ページの4番に図書館の話があるが、右側の事業内容の2つ目に、「身近に利用でいる情報拠点」とあるが、誤字だと思う。「利用できる」と修正をお願いします。</p> <p>また、「図書の収集」という事業は、情報拠点となるように多くの本を買うことか。分かりにくい表現だと思う。</p> <p>「子ども読書活動の推進」が再掲とあるが、これは前回も書いてあったということだと思う。少し言葉を変えた方がよいと思う。</p> <p>また、「まいばら読書の日」は、これは図書館協議会で議論されたことではなく、米原市が決めたことだと思う。花火だけ上げて、あとは特に何もしないのか。集計をしたり、読書感想文を募集したりすることはないのか。この事業は、どのようにっていくのか、私自身も不</p>

	<p>安に思っている。子どもに、翌日、先生に何か聞かれたかと尋ねても、何も聞かれなかったということだった。これでは、市が実施していると思っけていても、浸透していかないと思う。意見として申し上げた。</p>
<p>会長</p>	<p>ほかに御意見等はないか。</p>
<p>委員</p>	<p>3 ページの基本目標 3-1 「一人一人の特性に応じた教育の推進」ということだが、私の職場である児童発達支援センター内において、相談支援や児童発達支援、放課後等デイサービスというものを行っているが、保育や教育の現場に出向いている訪問型の事業が載っている方がよいと思う。ここの表現を、「保育所等訪問支援」とした方がよいと思う。保育現場や教育現場に出向き、子どもが教育を受けやすい机の高さや椅子の高さ、座席の場所、先生方の教材の提示の仕方、保育であれば、集団の中でどのように適応すればよいのか等の助言を行っている。施策の方向から言えば、全て事業を挙げていただくことが最良だが、教育保育の現場での訪問支援が合うと感じるので、よろしく願う。</p>
<p>会長</p>	<p>ほかに御意見等はないか。</p> <p>皆さん方から多くの貴重な御意見をいただき、感謝したい。本日、いただいた御意見以外にお伝えしたいことがあれば、メールや FAX で事務局までお伝えいただきたい。</p> <p>次にその他について、事務局から願う。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局から連絡事項がありますので、御報告する。</p> <p>本日、議論いただきました骨子案を整理させていただき、次回審議会で議論していただく施策案を提示させていただきたい。</p> <p>次回の第 5 回目の審議会の日程につきましては、7 月上旬の開催を予定しており、改めて、開催の御案内をさせていただく。</p>

会長	<p>議事は全て終了した。真摯に御議論いただき、感謝したい。 進行を事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>閉会に当たり、副会長より御挨拶をお願いします。</p>
委員	<p>例年よりも非常に早く梅雨入りし、天候異常が続いて、異常が異常でなくなっている。皆さんも、日々、御留意いただき、どこに行っても、どこが安全なのか、十分に考えていなければいけないと思う。例えば、この会場に初めて来たのであれば、非常口がどこにあるのか確認しておかなければいけない。何も起こらないと、だれもが考えたいが、地震や火災、停電等が起こったときに、まず自分の身を守ることが一番大事なことだと思う。その次に、周囲の方、その中でも支援が必要な方の安全ということに視野が広がればよいと思う。</p> <p>本日の審議会は、現在の米原市の子どもたちに向けた教育、または広く生涯学習、つまり生涯にわたった教育ということで、米原市民の方に視野を置いて協議をさせていただけたことに、改めて感謝する。今後ともよろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>以上で、第4回米原市教育振興基本計画審議会を閉会する。</p>